

中世文化と浄土真宗

今井雅晴先生古稀記念論文集編集委員会 編

▶ A5判・660頁／定価 13,650円(税5%込)

2012年8月刊行予定

常に日本中世宗教史研究を先導してきた、筑波大学名誉教授・今井雅晴先生の古稀を記念して、国内のみならず海外にもおよぶ幅広い層の研究者が、親鸞と浄土真宗史研究の進展を期した最新研究28本を寄せた大冊。
ISBN978-4-7842-1636-9

内容目次

緒言(今井雅晴)

親鸞伝の新展開 今井雅晴(筑波大学名誉教授)

一 中世文化の中の浄土真宗

空海の御影とその儀礼環境 阿部龍一(ハーバード大学教授)
——中世密教の視覚性と正統性の関連について——

穢と不浄をめぐる神と仏 山田雄司(三重大学教授)

覚如と呪術信仰 小山聡子(二松学舎大学准教授)
——治病と臨終に対する姿勢をめぐる——

真宗三尊考 飛田英世(茨城県立歴史館首席研究員)

二 法然から親鸞へ

建永の法難と九条兼実 平 雅行(大阪大学教授)
——法然伝の検討を通して——

親鸞の「転入」の解釈学【英文】 ヒロタ・デニス(龍谷大学教授)

悲しき学び 田村晃徳(武蔵野大学非常勤講師)

親鸞と良忠——その教化と教説—— 永村 眞(日本女子大学教授)

法然の残影 市川浩史(群馬県立女子大学教授)
——覚如と存覚のあいだに——

三 親鸞の思想

『教行信証』の不思議さの読解(その一)
——「化身土」の「弁正論」の引用について——

親鸞の聖徳太子観 張 偉(同朋大学准教授)
親鸞における臨終行儀の否定【英文】 佐藤弘夫(東北大学教授)

ジャクリーン・I・ストーン(プリンストン大学教授)

「二河白道の譬喩」伝播の鳥瞰的考察 山本浩信(浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター研究員)

田辺元の『懺悔道としての哲学』における親鸞解釈 末木文美士(国際日本文化研究センター教授)

四 親鸞とその家族

浄土真宗における恵信尼について【英文】 ジェームズ・C・ドビンズ(オーバリン大学教授)

恵信尼と同時代を生きた三善氏 樋川智美(真宗文化センター会員)

「本願寺」成立の再考 林 蕙如(岡山大学大学院博士課程)

真宗史における善鸞伝私考 御手洗隆明(真宗大谷派教学研究所研究員)

存覚、顕密寺院と修学文化【英文】
——十四世紀における唱導の報恩言説、諸宗兼学及び浄土教聖教に関する一考察——

ブライアン・小野坂・ルバート(イリノイ大学教授)

五 親鸞とその門弟

初期真宗門徒における師と弟子——門徒形成の契機として—— 植野英夫(千葉県文化財課主任文化財主事)

親鸞門弟中における「沙門」と「沙弥」 山田雅教(浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター研究員)

佛光寺発展の意義——了源・存覚を中心として—— 楠 正亮(興泉寺住職)

六 浄土真宗の展開

本願寺歴代宗主の伝道——善如期から存如期を中心にして—— 高山秀嗣(東京学芸大学非常勤講師)

「御文」にみる専修念仏言説の一特質 神田千里(東洋大学教授)

蓮如の善知識観——中世真宗教学における教導者観の展開—— 黒田義道(浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター研究員)

天文期加賀における「超・本両寺体制」の再検討
——超勝寺の動向を中心に—— 大溪太郎(早稲田大学大学院博士課程)

北方地域と浄土真宗 佐々木馨(北海道教育大学教授)

今井雅晴先生履歴年譜・業績目録
編集後記

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

| | | | | | |
|------|--|-----------|--------|-----------------|-----------------------|
| 注文票 | | 発行: 思文閣出版 | | (京都 取引コード 3402) | |
| 冊数 | 冊 | 中世文化と浄土真宗 | | 本体13,000円(税別) | ISBN978-4-7842-1636-9 |
| お名前 | | | tel | | |
| | | | e-mail | | |
| ご住所 | 〒 | | | | |
| 送本方法 | <input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい) | | | | 書店番線印 |

日本の社会と真宗

千葉乗隆編

龍谷大学・本願寺史料研究所で千葉乗隆先生の学恩を受けた人々による、真宗史研究における史料・寺院・信仰などのさまざまな課題に取り組んだ成果13篇を収録。【執筆者】千葉乗隆・藤井利章・岡本敏行・高橋事久・日野照正・藤原正己・木村壽・直林不退・濱岡伸也・朝枝善照・知名定寛・左右田昌幸・高島幸次・北野裕子
▶A5判・285頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1009-1

法然伝承と民間寺院の研究

平祐史著

近世社会において、民間の浄土宗寺院はどのような変化をとげてきたのか。日本各地の民間寺院に伝わる開創・宗祖伝承や地名、史料等の考察を通じて、浄土宗教義の変容や民俗信仰との関わり合いを明らかにし、歴史民俗と浄土教学史という双方の立場から、民間寺院における近代化の実態に迫る。
▶A5判・444頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1534-8

※西山浄土教の基盤と展開

五十嵐隆幸著

日本仏教を基盤に日本浄土教の祖師や、浄土宗の開祖法然の浄土教義、さらに門弟の證空や行観を中心に西山教義をまとめる。「旧仏教・新仏教」「正統仏教・異端仏教」といった対立構造ではなく、浄土教義を軸に日本文化を継承創造する仏道として、日本仏教の姿を構成する試み。
▶A5判・308頁／定価4,200円 ISBN978-4-7842-1529-4

日本中世政治文化論の射程

山本隆志編

編者の指導・学恩を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究成果を収録した論文集。【執筆者】関周一／山田雄司／濱口誠至／阿部能久／井上智勝／新井教史／山澤学／苅米一志／山野龍太郎／佐々木倫朗／須賀忠芳／平野哲也／藪部寿樹／小山聡子／佐藤喜久一郎／門口実代
▶A5判・344頁／定価8,190円 ISBN978-4-7842-1620-8

崇徳院怨霊の研究

山田雄司著

日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになったのか、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにかしてまとめ上げられていったのかを、文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討することにより解明する。
▶A5判・314頁／定価6,300円 ISBN4-7842-1060-1

一休派の結衆と史的展開の研究

矢内一磨著

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明することで、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、門派での祖師忌法会を第一部でとりあげ、大徳寺復興や在俗信仰者の結衆の問題を第二部で扱う。
▶A5判・370頁／定価8,190円 ISBN978-4-7842-1525-6

周縁文化と身分制

脇田晴子・マーチン・コルカット・平雅行編

前近代社会を近代化の呪縛を脱した地平から見直し、周縁部分をテーマとすることで新たな前近代社会像を構築。【執筆者】武田佐知子／田端泰子／マーチン・コルカット／吉田伸之／デイビット・ハウエル／ルーク・S・ロバーツ／コンスタンティン・N・ヴァボリス／松井章／平雅行／脇田晴子／脇田修／塚田孝
▶A5判・350頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1231-0

※幕藩権力と寺院・門跡

杉田善雄著

思文閣史学叢書

宗派・教団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世寺社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することによって、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。さらに、旧社権門の頂点に位置した門跡を分析対象とし、近世における門跡制の特質を明らかにする。
▶A5判・320頁／定価7,560円 ISBN4-7842-1166-7

蓮如上人研究

蓮如上人研究会編

蓮如上人500回遠忌を記念し、上人から学ぼうとする人々のおもいを集めて編まれた論集。根本義など教学上の問題にとどまらず、北陸・近江・四国や中国地方などの各地のつながり。伝記、民俗からみた蓮如上人、更には真宗寺院建築の特色や上人の作庭など、幅広いテーマを扱って読み易く書かれた、蓮如上人の真実の姿を伝える有意義な書。
▶A5判・492頁／定価10,500円 ISBN4-7842-0961-1

※法然伝と浄土宗史の研究

中井真孝著

思文閣史学叢書

都市的な顔と田舎的な体を具有する浄土宗の性格が形成された過程を「法然上人伝」「中世浄土宗寺院」「近世本末関係」を軸に解明する待望の論集。
【内容】法然上人伝の研究／中世浄土宗寺院の研究／近世本末関係の研究
▶A5判・430頁／定価9,240円 ISBN4-7842-0861-5

禿氏文庫本

大取一馬責任編集

龍谷大学善本叢書29

龍谷大学大宮図書館所管の「禿(とく)氏(し)文(ぶん)庫(こ)」は龍谷大学名誉教授禿氏祐祥博士寄贈の文庫である。その内容は、梵文経典や中国・日本の仏書をはじめ、真宗史・仏教美術に関する典籍、絵画等多岐にわたっており、総数2300余点に及ぶ。その中から善本に値するものを選び、影印として1冊にまとめる。
▶A5判・674頁／定価14,700円 ISBN978-4-7842-1539-3

日本近世の宗教と社会

菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道等と地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。
▶A5判・380頁／定価8,190円 ISBN978-4-7842-1572-0

権者の化現 天神・空也・法然

今堀太逸著

佛敎大学鷹陵文化叢書15

日本国の災害と道真の霊・六波羅蜜寺の信仰と空也・浄土宗の布教と法然伝の3部構成で、仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。
【内容】「天神」日本国の災害と道真の霊／「空也」六波羅蜜寺の信仰と空也／「法然」浄土宗の布教と法然
▶A5判・312頁／定価2,415円 ISBN4-7842-1321-X

太子信仰と天神信仰 信仰と表現の位相

武田佐知子編

聖徳太子信仰・天神信仰の比較研究。各専門分野の研究者による、両信仰に関わる美術史、文学史、宗教史、芸能史的研究を集成し、時代のニーズとともに変化する信仰の形態や、それに付随するイメージの付与、そして宗派や地域を越えて多面的に利用されるそれぞれの信仰の進化形について明かす。
▶A5判・354頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1473-0

※東大寺文書を読む

堀池春峰監修／綾村宏・永村眞・湯山賢一編

古代を今に伝える東大寺文書(平成10年国宝指定)より50余点を選びその魅力を紹介。各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付す。文書写真は大型図版で掲載、カラー口絵4点を付す。【構成】文書の伝来／勅進と檀越／寺家と寺領／法会と教学／文書の姿
▶B5判変・192頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1074-1

※中世寺院社会の研究

下坂守著

思文閣史学叢書

比叡山延暦寺を主たる対象とし、惣寺一僧侶たちによる合議一を基礎単位とした中世寺院の広がりや寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察。惣寺がいかなるものであったかはもとより、惣寺を基盤として形成されていった寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る、著者初めての論文集。
▶A5判・598頁／定価10,290円 ISBN4-7842-1091-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。